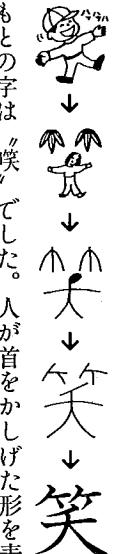


笑

四年 筆順 笑 画数 10
オン ショウ
キン わらう・えむ

成り立ち



もとの字は「咲」でした。人が首をかしげた形を表したチャーミングな女の意味の「天」と、しなやかな竹の意味を表した「竹」と、「口」とを組み合わせて作った字です。

「しなやかでチャーミングな女の人が『ほほえむ』ことを表した字です。やさしく『ほほえむ』ことを表した字ですが、今では、『大笑いする』ことにも使います。

むかしは笑うことを『えむ』と言いました。
「えがお」は『笑む顔』という意味です。

唱

四年 画数 11
筆順 ロ 口 唱唱
オン ショウ
キン となえる

成り立ち



「日の光」のとても明るいことを表した「昌」と、声

を出す意味の「口」とを組み合わせて作った字です。
「口から明るい声を出す」ことを表した字です。はつきりとした声で、お経などを「となえる」ことや、よい

声で、歌などを「うたう」という意味に使います。
例唱 名、唱経、唱歌、合唱。

〔昌は、日と「曰（言う）」との会意字で、「明らかにい
う」という意味の字で、今の「唱」の意味の字であり、
「唱」の本字である。「昌」が「明」の意味に使われるよ
うになつたため、「口」を加えて「唱」という字を作つた
ものである。〕

△きれいな女の人が微笑すると、もつときれいに見えます。動物は笑いません。やさしい微笑は神様が人間にくれた一番すてきなおくりものだと思います。

△おとうさんに「白髪がふえましたね」と言つたら、おとうさんは苦笑していました。悪いことを言つてしまつたなど後悔しましたが、後の祭でした。

△微笑（ほほえむこと）

△苦笑（苦笑）。ぐあいの悪い時に、それをさまかしたりするための笑いです。

△大笑（大笑い。大きな声で笑うこと。「その冗談に、みんな呵々大笑した」などというふうに、つかいます。）

△失笑（おかしくて、つい笑ってしまうこと。本人はまともなことを言つたつもりなのに、それを聞いた人はおかしく思えてつい笑ってしまうこと。「知ったかぶりをして他人の失笑を買う」などと、つかいます。）

△談笑（うちとけて、話したり笑つたりすること。「仲の良い友だちと談笑しているうちに、つい時のすぎるのも忘れてしまつた」などというふうに、つかいます。）

使い方

△アラジンが「開けゴマ」と、呪文を唱えると、山はボツカリと口を開けました。

△わたしは、みんなの前で詩を暗唱したことがあります。うまくやれるかどうかと、ドキドキしたので、口の中まで二回おまじないを唱えました。すると、気分が少しわちついて、何とか暗唱できました。

△唱名（仏様の名前を唱えること。「南無阿彌陀仏」など。漢音ではなく、吳音で「ショウミヨウ」と読みます。）

△唱経（声を出して、経文を読むこと。お経を唱えること。「おごそかな唱経が響いて来た」などというふうにつかいります。）

△唱歌（歌をうたうこと。また、むかし、小学校で教えた歌のこと。「今は、唱歌の授業は無くなつて、唱歌を知っている子供も少なくなつたが、さびしいことだ」などというふうに、つかいます。）

△合唱（みんなで声を合わせて歌うこと。）

語例